

第9回  
▷子どもノンフィクション文学賞 ◇

佳作

「未来に伝えたい気持ち」

前橋市立桃井小学校 五年

新池谷 悠

わたしは、友達の家にいるうさぎのことが大好きだったので、自分もうさぎを飼いたいと思っていました。友達のうさぎをだっこすると、心が落ち着き、幸せな気持ちになりました。だから、そのうさぎが死んでしまった時、悲しくてたまりませんでした。

しかし、友達の知り合いから、うさぎをもらえることになりました。わたしは、「早くうさぎがこないかな。」と待ち遠しくなりました。わたしは、自分のうさぎができるので、たくさんだっこして、かわいがつてあげようと思つていました。

そして、友達のお母さんから、うさぎが来たという連らくが入りました。メールには、「ちょっとどちがう感じだけど。」と書かれていたので、わたしは少し不安な気持ちになりました。でも、わたしはすぐに会いたかったので、急いでうさぎを取りに行きました。

げんかんに入るとすぐ、うさぎのおしつこをしたあとがありました。そして、うさぎは、ペランダをはげしく走っていました。身体中毛玉だらけで、あごひげが下向きにたくさん生えていました。わたしは、自分が想像していたうさぎどちがつて、びっくりしました。でも、わたしは、うさぎをだっこしてみたかったので、おそるおそるおそる起きあげてみると、意外におとなしくだっこさせてくれました。

帰りの車の中で、うさぎは、だんボール箱から出たり入ったりして、落ち着きがなかつたです。あごひげが生えたおじいさんとすれちがつた時、兄が「(うさぎは)あの人によっているね。」と言いました。わたしは、笑つてしまつたけれど、このあごひげが生えたうさぎが自分の

うさぎになるのだとと思うと、少し悲しくなりました。

うさぎの飼い方の本によれば、うさぎが家に来た直後は、「静かな場所でそつとしておく」と書いてあつたので、牧草とペレット、水をあげると、一匹にしてあげました。でも、わたしはうさぎの様子が気になつたので、何度も見に行き、父に注意されました。わたしは、うさぎと早く仲良くなりたかったのです。

うさぎの種類は、ライオンヘッドだつたので、友達が「ライちゃん」と名付けてくれていました。だから、名前は「ライ子」にしようと思いましたが、あまりかわいい感じがしないのでやめました。見た目はライオンみたいで、力も強いので、「ライ子」という名前は、ぴたりだつたけれど、わたしは、やさしいうさぎになつてほしいと思つたからです。家族で相談した結果、うさぎの名前は、「未来」に決まりました。この名前にした理由は、ずっと先の未来まで長生きしてほしいという願いをこめたからです。また、名前をちぢめて「みーちゃん」とよぶと、かわいらしい感じがしたからです。

そして、うさぎが来てから一週間ぐらい経つたので、わたしは未来をだいてみることにしました。小屋から出るのをいやがつていた未来はわたしは、なだめるように出して、やさしくだきあげました。しかし、未来は後ろ足のけりをくり返し、最後は全身を使つた強れつなキックをわたしにお見まいしてきました。そして、自分はすごい勢いで、小屋の中にもどつてしましました。わたしのうでは、未来のつめによつてできた線状の水ぶくれとひりひりするいたみが残つていきました。そして、私の心もいたくなりました。

わたしは、友達のうさぎはだつこさせてくれたこともあり、どんなうさぎもだつこができるものだと、思つていました。しかし、未来はだつこがきらいなうえに、らんぼう者ものなので、わたしは未来をだつこすることをあきらめようかとも思いました。うさぎの本やペットショップで、他のかわいいうさぎを見るたびに、「こんなうさぎが飼いたいな。」と思うこともあります。

父は、動物の毛が苦手で、だつこをすること自体がき

第9回  
△子供ノノイクシヨン文学賞○

らいだったので、「みーちゃんはかわいいよ。」と、このうさぎをかわいがつていました。未来は、だっこはきらいでしたが、頭や身体をなでてあげると、目を細めておとなしくしていました。父は、それだけで満足できるようですが、わたしはやはりだっこをしないと気がすまないのです。

そこで、わたしは未来がどうすればひざに乗ってくれたり、だっこさせてくれるのかを考えてみました。未来は、食よくおうせいで、特にペレットが大好きでした。わたしは、未来にこれを小屋の中であげるのではなく、わたしのひざの上で食べさせてみると、ちょうど戦しました。未来は、わたしがペレットをずっと持っているのを見ると、小屋から出たり入ったりして、どうしようかまよっていました。でも最後は、未来はペレットを食べたい気持ちが強かつたのか、わたしのひざに乗って、食べてきました。食べている間は、食べることに夢中で、自分がだっこされていることを忘れているようでした。わたしは、未来を初めてゆっくりだっこすることが

できて、とてもうれしかったです。しかし、未来はペレットを食べ終わるとすぐに、百八十度向きを変えて、ものすごい勢いで自分の小屋にもどってしまいました。わたしは、少し空しい気持ちになつたけれど、これからは、大好きな食べ物を使えば、未来がだっこになれるかもしれないという希望が生まれました。この時以こう、わたしは、ペレットを自分のひざの上であげるようにしています。今では、ペレットをあげるために、その重さを量っていると、小屋のガラスのとびらを前足でひつかいたり、ケージをかじつたりして、待ちきれない様子を見せます。そして、とびらを開けると、一目散にわたしのひざの上に飛び乗ってきます。ペレットのために必死な未来のまぬけな顔や行動が見えて、わたしは少し未来のことが好きになりました。

夏休みには、未来の昼間の行動を調べて、もつと未来のことを知ろう、そして仲良くなりたいと思いました。午前七時から午後七時までの十二時間の間、未来の様子を観察して、行動の内容と時こくを、ノートに書いてい

きました。未来は、横になつたり、牧草を食べたり、毛づくろいをしたりしていました。水飲みやトイレの時間は短いので、キッチンタイマーを使って、その時間を計りました。一週間、未来をずっと観察しましたが、その間は集中して読書をしたりすることができないだけではなく、食事もゆつくり食べられませんでした。なぜなら、未来が水飲みを始めるとき、わたしは食事中であつても、急いでタイマーのボタンをおさなければならぬからです。

しかし、今まで知らなかつた未来の行動やかわいらしさがたを見ることができました。毛づくろいは、前足、後ろ足、せ中、あごの下、顔等色々な部分を、時間をかけて、ねいに行つていきました。なかでも、顔の毛づくろいは、顔をあらつてゐるみたいに見えて、わたしは心がいやされました。また、「バタツ」という大きな音を立てて、いきなりおれるように横になることもあります。その時の未来の目は半開きで、ふさいくな顔だけど、それを見ると、みんなが自然と笑顔になりました。

うさぎを観察した結果、うさぎの昼間の行動は、横になる、牧草を食べる、毛づくろい、運動、水飲み、トイレが主であることが分かりました。十二時間を通して、きちんと調べることができた三日間にについて、一時間ごとに、これらの行動のそれぞれについて、合計時間を出しました。

うさぎが一番長くとつていた行動は、横になることでした。午後の一時から五時の時間帯においては、特に横になることが多く、一時間の間に五十分前後もそうしていました。午前中も二十九から三十分位の間、横になつっていました。牧草をよく食べていたのは、午前中と午後五時以こうの時間でした。この時、一時間あたり約十分から三十分かけて、食べていました。毛づくろいは、どの時間帯においても十分から二十分ぐらいの間、行つていました。

この後、うさぎが昼間、それぞれの行動をどれぐらいしているのかを分かりやすく示すため、割合で表しました。うさぎが長くとつていた行動である横になることは、

第9回  
△子どもノフィクション文学賞〇

比率で表すと、三日とも五十パーセントをこえていました。その平均は五十三パーセントで、うさぎは昼間の十二時間のうち約半分に相当する六時間二十四分横になっていました。次に長くしていた行動は毛づくろいで、三日間の平均は十九パーセント、時間にすると、十二時間中二時間十八分になりました。次が牧草を吃ることで、三日間の平均は十八パーセント、十二時間中二時間十三分でした。うさぎの生活は、横になる、牧草を吃ることと毛づくろいの三つの行動で、九十パーセントの時間ををしめていることが分かりました。

午前と午後に分けてみると、午前の方が牧草をよく食べていました。午前中の時間のうち、牧草を吃っていた時間の割合は二十五パーセントでした。これに対し、午後の時間の割合は十二パーセントで、低くなっています。午後の方が長く時間をとっていたのは、横になることでした。これの午前中の時間の割合は、四十一パーセントで、午後は六十五パーセントでした。これにより、午後は、午前より横になつていることが多く、牧草を吃る

時間はへつてていることが分かりました。毛づくろいは、午前と午後で大きなちがいはみられませんでしたが、午後の方が少しだけ多く毛づくろいをするけいこうが見られました。

横になるについては、足をのばし目をとじている時、足をのばし目を開けている時、すわって目を開けている時がありました。しかし、これらの区別をして、それぞれの時間をだすまではできませんでした。わたしが観察したなかでは、うさぎが足をのばすがたはよく見られましたが、目をとじていることは少なかつたようと思われます。わたしは、うさぎは弱い動物だから、長い時間目をつぶつていると、敵におそわれてしまうからかな、と思いました。

また、未来のトイレは、一日でウンチでいっぱいになりますので、一日のウンチの数とその重さを調べてみることにしました。うさぎは、数に多少のばらつきがあつたけれど、一日に約二百五十から三百五十個ぐらいのウンチをしていました。重さにすると、一日あたり約五十から

九十グラムになりました。ウンチ一個の重さは約〇、二五グラムでした。うさぎのウンチ四個で、一円玉の重さに相当することが分かりました。

ウンチについては、食べた物とも関係すると思い、ペレットは朝十グラム、夜二十グラムと量を決めました。でも、牧草は下に落とした物を残すことが多いので、食べた量を量るのはむずかしく、分からなかつたです。ペレットや野菜の量を変えたりすると、ウンチの数や質も変わつたりするのかな、というぎ問が生まれました。ウンチを調べると、未来の体調が分かるかもしれないのに、毎日のそうじをさぼらないようにしようと思いました。

次に、午前、午後、夜間という時間帯に分けて、ウンチの数を五日間数えてみました。午前と午後を合わせた昼間のウンチの数の平均は百三十八個、夜間の数の平均は二百十二個でした。昼と夜では、四対六の割合で、夜の方がうさぎは、ウンチをたくさんすることが分かりました。昼間については、午後は、うさぎが横になることが多く、トイレの回数も少ないので、ウンチの数は十か

ら三十個という少ない数しかしていませんでした。夜のうさぎの様子を観察することはなかつたけれど、夜にウンチの数が多いことから、うさぎは夜に牧草を食べたり、トイレにも多く行つてていることがすい測できました。

わたしは、夏休みに未来の観察をして、うさぎが昼間どのような生活をしているのかが分かりました。観察中は、うさぎから目をはなすことができなくて大変でした。でも、うさぎの行動パターンが見えて、おもしろかつたです。また、うさぎと一緒にいる時間が増えたせいか、前よりも未来のことが好きになりました。うさぎは、午後は横になつていることが多いので、家を留守にしても大じょう夫かな、朝方や夕方は活動的なので、遊んであげようと思いました。

夏休みは、未来と一緒にいる時間が長かつたので、少し仲良くなれた気がしました。でも、二学期が始まると、運動会の練習などでいそがしくなり、未来との時間は少なくなつてしましました。小屋のそうじをさぼつたり、ペレットをひざの上で食べさせずに、小屋の中に置くだ

第9回  
△子どもノンフィクション文学賞〇

けにしたこともあります。未来は、そのことを何も思つていらない様子で、わたしは、少し悲しかったです。

わたしは、未来をだっこする時、「大好きだよ。」という気持ちを伝えたいのです。しかし、その気持ちは、未来にはなかなか伝わりません。未来は、わたしがペレットを持つてない時のだっこは、好きではない様子です。未来は、とても食いしんぼうなので、だっこができたごほうびに、未来が好きな果物をあげれば、だっこが好きになってくれるかな、と考えました。未来は、バナナやりんごが大好きなので、それをあげる時はすぐにひざに乗つてくるし、もつとほしいせいか、わたしのかたに手をかけます。わたしは、それがバナナの効力だと分かっているけれど、未来がそうしてくれると、とても幸せな気持ちになります。未来が一番好きな食べ物は、バナナのようです。バナナをあげると、興ふんして、まようことなくわたしのひざに飛び乗つてくるし、わたしの指に付いたバナナのかすまで食べようとしてなめてきます。でも、未来があまり好きではないらしいキヤベツや

大根の葉をあげる時は、少し様子がことなります。わたしがだっこをしながらあげようとしても、未来は強い歯で、わたしからそれらをうばってしまいます。そして、未来はトイレにすわって、それをゆっくり食べます。わたしは、「トイレで食べるなんて、不潔だな。」と思うけれど、トイレは未来にとつては、一番安全な場所のようです。おどろいた時、わたしが無理矢理だっこをしようとした時などは、未来はトイレに上げてしまうのです。

わたしは、図書館でもうさぎの本を数冊借りて、だっこがきらいなうさぎについて調べてみました。だっこは、なわ張りの外でするとおとなしくやらせてくれることもあります。書いてありました。そこで、わたしは未来をげんかんに連れていくて、だっこをしてみると、未来はいつもより長くだっこをさせてくれました。わたしはうれしくて、未来にごほうびをあげようと思つて、未来を自由にしてあげました。そのしゅん間、未来は、わたしの机の近くにあつたラジカセのコードをかんでいました。わたしは、すぐにそれをやめさせたけれど、その時には、

コードは中の金属が見えるぐらいがままでいました。わたしは、以前、未来がせん風機のコードをかんだ時、父が「新しいすい飯機のコードをかんだら、ただじゃおかないからな。」と言つていた言葉を思い出し、心ぞうがバクバクしました。なぜなら、ラジカセもまだ新しくて、父が高価な物だから、大切に使うように、家族に言つていたからです。だから、わたしは、母に相談して、電器店で代わりのコードがあるかを確にんしてもらいました。代わりのコードはあつたし、そのねだんも八百円だつたので、わたしはほつとしました。でも、わたしが未来をだっこしようとした結果、悪い事がまた起こったので、心がしぶんでしまいました。

わたしは、「未来が好きだから、だっこしたい。」といふ気持ちが、なぜ未来に伝わらないのかを考えてみるとしました。未来は、言葉は話せなければ、その行動を見ていると、未来の気持ちが分かるようになつてきました。わたしのかたに手をかけたり、直上にジャンプする時は、うれしい時です。これは、大好きな食べ物を

食べたり、遊んでいる時に、見られました。「ダンダン」と音をたてて、後ろ足でゆかをけつたり、「ブー」と低くないたり、かんだりする時は、おこつている時やいやなことがあつた時です。これは、未来を無理にだこうとしたり、小屋の中の物をさわったりする時に、見られる行動でした。

わたしは、未来と生活するなかで、未来にも未来の気持ちがあつて、わたしの思い通りにならないことが分かりました。それは、わたしにどつては、少しさびしいことだけど、未来は人形ではなく、生きているうさぎだから、当たり前のことだと気付きました。わたしが、未来を「だっこしたい」気持ちを変えられないのと同じに、未来も人に「だっこされたくない」気持ちを変えられないのかもしれません。それなのに、わたしが一方的に、未来に自分の気持ちをおしつけているから、わたしたちの関係は、あまりうまくいかないのかもしれません。

わたしたちの関係を良くするためには、未来がしてほしいくらいだっこはしないなど、わたしが未来の気持ちを

## ◀子どもノンフィクション文学賞 ◎

考えながら、行動すればいいと思いました。そうすれば、いつかは、未来にわたしの「大好きだよ」という気持ちが伝わる日が来るかもしれません。わたしと未来の関係は、まだ始まつたばかり、これからが楽しみになりました。

参考文  
けん..「かわいいウサギ飼い方・育て方」

田向 健一 監修 西東社